

## 8 細谷戸地区 地域福祉保健計画

### 1 地区の概況

- ・ 県営細谷戸団地が中心の連合自治会で、諸行事、一斉清掃など行動力、結束力が比較的強いです。
- ・ 年齢構成は、65歳以上の割合が36.7%と区平均22.0%に比べ非常に高くなっています。一方、15歳未満のこどもの割合も最近増加してきており、区平均をわずかに上回っています。
- ・ 家族構成は、区平均と比べて、単身、夫婦のみ、ひとり親と子世帯が多くなっています。



\* 細谷戸地区には相沢七丁目の一部も含まれます。

### 2 第1期で取り組んだ主な活動や事業

- ・ **地域の交流促進**  
平成19年に「サロン細谷戸」を開設し、多くの人が集える憩いの場づくりを進めています。
- ・ **高齢者への支援**  
「高齢者定期訪問事業」には約100件の登録があり、訪問員が安否確認や困り事の相談に応じています。  
また、平成15年末に発足した「お助けパートナー活動」は平成22年10月までで合計250件の受付処理を行い、さまざまな日常生活での困り事に対応しています。
- ・ **防犯・防災対策**  
「防犯パトロール」「防災訓練への参加」は計画通り、あるいは計画を上回る成果をあげています。

### 3 第2期計画に向けての課題

- ・ 高齢化率が高く、一人暮らし高齢者も多いため、孤独死防止、災害時等の要援護者の安全確保の観点からも、日ごろからの見守り体制の強化が重要な課題となっています。
- ・ こどもの割合が増えてきています。地域全体で子どもたちの健全な成長を見守っていく必要があります。
- ・ 高齢化のため、地域活動を支える人材の確保が難しくなっています。
- ・ ごみの分別をきちんとしない人や不法投棄をする人があり、対応に苦慮しています。



サロン細谷戸の様子



### 4 推進母体

細谷戸地区福祉保健計画実行委員会

(細谷戸連合自治会・細谷戸地区社会福祉協議会を中心とした各団体の代表者で構成)

## 5 第2期計画の取組内容

### 1 高齢者見守り体制の強化

#### <新しい取組> ～細谷戸“BEE・HIVE”作戦～

- ★ 街の見守り隊の組織化
  - ・自治会班長（181班）による「さりげない見守りと声掛け」
  - ・「緊急時連絡カード」の作成
  - ・携帯用「見守りポイントカード」の作成
- ★ 地域の見守りを推進する組織を設置
  - ・連合・社協・関係団体から7～10人程度
  - ・区役所・区社協・地域ケアプラザから各1人
- ★ 地域での見守り環境づくり
  - ・住民相互の声掛け運動等の展開

#### <従来の活動の一層の推進>

- ★ 高齢者定期訪問事業の一層の推進
  - ・事業の周知により対象者の増加を図る
- ★ お助けパートナー活動の推進
  - ・日常生活上の「困りごと」の相談、対応
- ★ 転倒骨折予防体操教室の実施
- ★ サロン細谷戸の運営
  - ・世代に関係なく憩える場づくり

### 2 地域で育む子ども達の成長

- ★ 「盆踊り大会」をはじめとする地域イベントでの異世代間交流の推進
- ★ 「エコ広場」を活用した子どもたちの健全育成
- ★ 地域活動への、中学・高校生等の積極的な参加
- ★ 「子育てお母さんの集い」等、子育て支援の展開

### 3 防犯・防災対策

- ★ 防犯パトロールの実施
- ★ 防災訓練への参加

### 4 ごみ対策

- ★ 分別マナーを守らない人への対応

#### ～“BEE・HIVE”作戦について～

“BEE・HIVE”とはミツバチの巣のことです。細谷戸連合181班を蜂の巣のように細分化し、見守りの体制をつくることに由来しています。

POINT!

